

# 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 264 号	氏名	中村 茂樹
学位審査委員	主査 吉浦 孝一郎 副査 森内 浩幸 副査 有吉 紅也		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、fluoroquinolone (FQ) 耐性インフルエンザ菌のキノロン耐性決定領域 (QRDR) の点突然変異を迅速に診断し FQ 耐性の判断をおこない、薬剤選択基準を確立しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 標準インフルエンザ菌株 1 種、FQ 感受性インフルエンザ菌 10 種類、FQ 耐性インフルエンザ菌 7 種類について、PCR 法と蛍光 DNA プローブを用いた融解曲線解析により <i>gyrA</i> と <i>parC</i> の DNA 変異と菌株の抗生剤最小抑制濃度 (表現型) を比較検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、PCR 法と蛍光 DNA プローブによる融解曲線解析は、迅速にかつ正確に QRDR 領域の DNA 変異を同定することが可能で、PCR 変異によって表現型上の感受性を推測できることを示唆していた。FQ 耐性菌の迅速同定および臨床に直結する薬剤選択への応用が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はインフルエンザ菌の薬剤耐性判定および臨床応用研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			